

3. 令和5年度の財務諸表について

ミカタ14P



(1) 貸借対照表

決算日における法人の財政状態を明らかにし、負債の部は「資金の調達源泉」、資産の部は「調達された資金の運用形態」を示します。

(1) 資産

(単位：百万円)

勘定科目	令和5年度	令和4年度	増▲減
資産の部	157,247	147,418	9,828
固定資産	130,847	120,313	10,533
土地	53,205	53,205	-
※1 建物・構築物	52,584	39,553	13,030
※2 機械装置・工具器具備品	6,303	7,215	▲ 912
図書	4,683	4,668	14
船舶	673	1,023	▲ 349
※3 建設仮勘定	207	5,521	▲ 5,314
※4 投資有価証券	10,722	8,717	2,005
※5 減価償却特定資産引当金	2,092	-	2,092
その他	374	407	▲ 33
流動資産	26,400	27,104	▲ 704
※6 現金及び預金	18,828	19,586	▲ 758
※7 未収入金	6,578	5,661	917
有価証券	100	1,200	▲ 1,100
その他	893	656	236

※1 建物・構築物は、外来診療棟・病棟（A棟）新営、入来牧場実験研究棟新営により増加しております。また、国より承継された資産（病院分）の耐用年数の修正により減価償却累計額が増加したことも影響しています。

※2 機械装置・工具器具備品は、新規の取得による増加よりも、減価償却累計額の増加の方が大きいことため全体では減少しております。

※3 建設仮勘定は、外来診療棟・病棟（A棟）新営竣工等により減少しております。

※4 投資有価証券は、京セラ株式会社の有価証券の評価額が上昇したことやその他の有価証券の運用を開始したことにより増加しております。

※5 減価償却引当特定資産は、次年度以降の資産更新のための積立を行ったため増加しております。

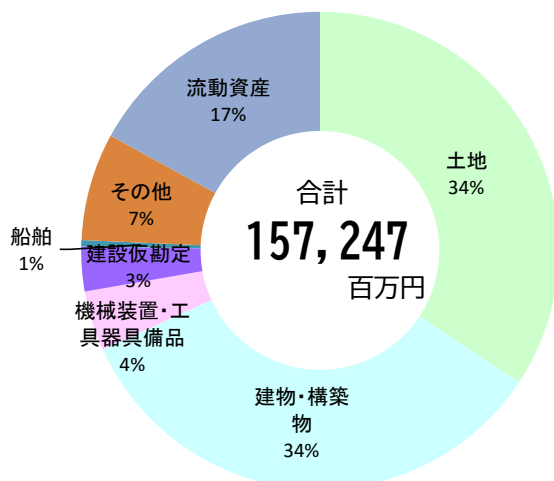
※6 現金及び預金は、附属病院収入の増加や経費節減、譲渡性預金を定期預金に振替等がありましたが、次年度以降の資産更新のための減価償却引当特定資産の引当を実施したために減少しております。

※7 未収入金は、未収附属病院収入が82%を占めており、補助金等の未入金により増加しております。

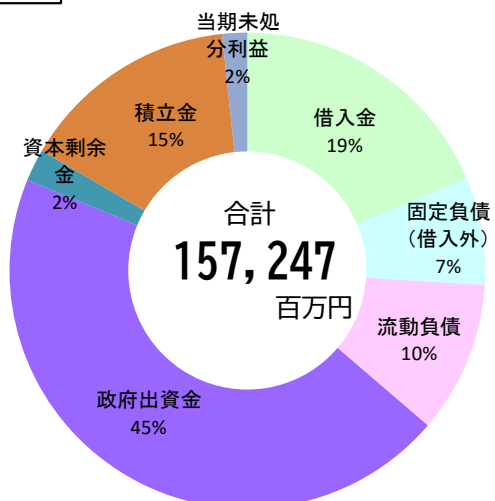
※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

令和5年度 資産、負債・純資産の構成

資産



負債・純資産



(2) 負債・純資産

(単位：百万円)

勘定科目	令和5年度	令和4年度	増▲減
負債の部	57,050	49,631	7,418
固定負債	40,827	32,180	8,647
借入金	29,339	21,736	7,602 ※1
その他	11,488	10,443	1,044 ※2
流動負債	16,222	17,451	▲ 1,228
運営費交付金債務	305	105	199 ※3
寄附金債務	5,322	5,130	191
一年以内返済予定借入金	1,925	1,878	47 ※1
未払金	6,208	7,396	▲ 1,187 ※4
その他	2,460	2,939	▲ 479 ※5
純資産の部	100,197	97,787	2,410
資本金（政府出資金）	70,643	70,643	-
資本剰余金	3,447	3,530	▲ 83 ※6
積立金（利益剰余金）	23,420	8,692	14,727
当期末処分利益・損失（利益剰余金）	2,685	14,920	▲ 12,234

※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

ミカタ7P

※1 借入金・一年以内返済予定借入金は、外来診療棟・病棟（A棟）新営等の病院再開発に伴い増加しております。

※2 固定負債のその他は、寄附された投資有価証券の増加に伴う長期寄附金債務の増加等によるものです。

ミカタ3・4P

※3 運営費交付金債務は、年俸制導入経費、退職手当の繰越分及び修士及び博士課程の定員未充足分の返還予定分となっております。

※4 未払金は、計画的な執行計画を行ったことや令和4年度は外来診療棟・病棟（A棟）新営に伴う出来高払等があったことにより減少しております。

※5 流動負債のその他は、外来診療棟・病棟（A棟）新営に伴う預かり施設費が収益化された等により減少しております。

※6 資本剰余金は、国から措置された施設費補助金等で固定資産を取得した場合など、国立大学法人が財産的基礎を構成すると認められた際に計上されます。

令和5年度は、外来診療棟・病棟（A棟）新営等により増加しましたが、過去の会計処理の修正（以前取得した資産の修正）をしたことや減価償却費相当額により減少しております。

(2) 純資産変動計算書

(単位：百万円)

科目	令和5年度	令和4年度	変動額
資本金	100,197	97,787	2,410
資本金	70,643	70,643	-
資本剰余金	3,447	3,530	▲ 83
利益剰余金	26,106	23,612	2,493
前中期目標期間繰越積立金	8,558	8,692	▲ 133 ※7
教育研究環境整備積立金	3,027	-	3,027 ※8
積立金	11,834	-	11,834 ※8
当期末処分利益	2,685	14,920	▲ 12,234 ※9
評価・換算差額等	-	-	-

※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が、一事業年度でどのように変動したかを表すものです。

※7 前中期目標期間繰越積立金は、第Ⅲ中期計画期間の前中期目標期間繰越積立金に令和4年度に繰り越す運営費交付金及び目的積立金等を加えて計上し、一部事業実施に伴い取崩しております。

※8 教育研究環境整備積立及び積立金は、前年度の当期末処分利益から経営努力認定を受けた分が教育研究環境整備積立金となり、差額が積立金として承認されており、一部事業実施に伴い取崩しております。

※9 当期末処分利益は、当該年度の当期総利益となっております。

(3) 損益計算書

ミカタ15P



収益から費用を差し引きした金額を利益とし、一事業年度における国立大学法人の運営状況を明らかにしています。

(単位：百万円)

(1) 費用

※1 教育経費は、令和4年度は特殊要因（船の修繕等）による費用が発生したことや（経費節減及び次年度以降の資産更新等のため）消耗品費及び備品の減少しております。

※2 研究経費は、令和4年度は特殊要因（移転費等）による費用が発生したことや（経費節減及び次年度以降の資産更新等のため）消耗品費及び備品の減少しております。

※3 診療経費は、診療報酬稼働額増加に伴う医薬品費及び医療材料等の増加及び外来診療棟・病棟（A棟）完成に伴う備品等が増加したために増加しております。

※4 人件費は、人事勧告や看護職員処遇改善等に伴う増加よりも、退職手当等による減少の方が大きいため減少しております。

※5 臨時損失は、外来診療棟・病棟（A棟）新営に伴う撤去費等（資産未計上分）及び国より承継された資産（病院分）の耐用年数の修正によるものです。

※6 当期総利益

経常収益	55,829
経常費用	52,929
経常利益	2,900
臨時損益	▲ 251
取崩額	36
当期総利益	2,685

勘定科目	令和5年度	令和4年度	増▲減
経常費用	52,929	52,296	633
業務費	51,805	51,061	744
※1 教育経費	2,861	3,082	▲ 221
※2 研究経費	2,094	2,251	▲ 156
※3 診療経費	19,952	18,722	1,229
教育研究支援経費	485	505	▲ 19
受託研究費等	1,482	1,509	▲ 27
※4 人件費	24,929	24,988	▲ 59
一般管理費	1,014	1,154	▲ 140
財務費用	109	80	28
雑損	-	-	-
※5 臨時損失	700	290	410
※6 当期総利益・損失	2,685	14,920	▲ 12,234

※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

(4) 利益の処分に関する書類

国立大学法人は、効率的な業務運営による経費の削減や自己収入の増加など、経営努力が認められた場合には発生した利益を目的積立金として中期計画に沿って教育研究等の環境整備に活用することができます。

ミカタ12・18P



(単位：百万円)

※7 当期総利益には、中期目標期間中に教育研究診療の質の向上及び組織運営の改善を図るために積み立てる額として、経営努力認定を受けるべく文部科学大臣に申請する金額が含まれております。

なお、令和5年度については、申請額が発生しておりません。

※中期目標期間最終年度は、目的積立金相当額として繰越申請します。

科目	令和5年度	令和4年度	増▲減
当期末処分利益	2,685	14,920	▲ 12,234
当期総利益・損失	2,685	14,920	▲ 12,234
前期繰越欠損金	-	-	-
利益処分数額	2,685	14,920	▲ 12,234
※7 積立金 (目的積立金相当額)	-	3,086	▲ 3,085
積立金 (目的積立金相当額以外)	2,685	11,834	▲ 9,148

(2) 収益

(単位：百万円)

勘定科目	令和5年度	令和4年度	増▲減
経常収益	55,829	55,352	477
運営費交付金収益	15,308	15,065	242 ※1
学生納付金収益	6,130	6,140	▲9
附属病院収益	28,632	27,413	1,218 ※2
受託研究等収益	1,495	1,485	9
寄附金収益	1,463	1,381	81
補助金等収益	1,029	2,237	▲1,207 ※3
施設費収益	506	463	43
財務収益	14	8	5
雑益	1,249	1,156	93
臨時利益	449	12,107	▲11,657 ※4
目的積立金取崩額・前中期 目標期間繰越積立金取崩額	36	47	▲10

ミカタ3・4P

※1 運営費交付金収益は、ミッション実現加速化促進経費等による減少があるものの、ミッション実現加速化経費等により増額しております。

※2 附属病院収益は、手術件数の増等による入院診療単価の向上及び外来診療収入増により増加しております。

※3 補助金等収益は、病院の新型コロナウイルス感染症に伴う補助金等が大幅に減少したため減少しております。

ミカタ7P

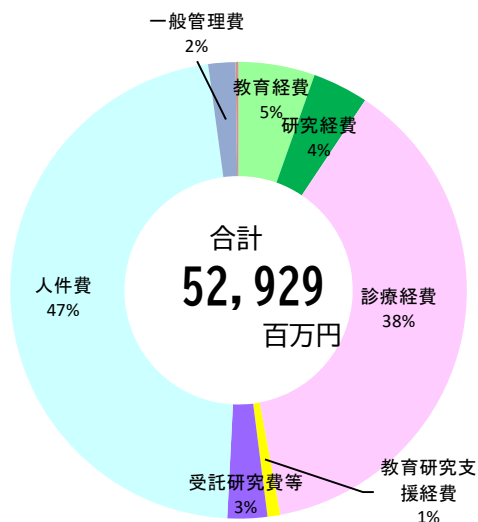
※4 臨時利益は、令和4年度は会計基準改訂が影響しており、令和5年度は、過去の会計処理の修正（以前取得した資産の資本剰余金等の修正）によるものです。

科学研究費補助金等の直接経費は貸借対照表の流動負債（預り科研費等）に計上されております。

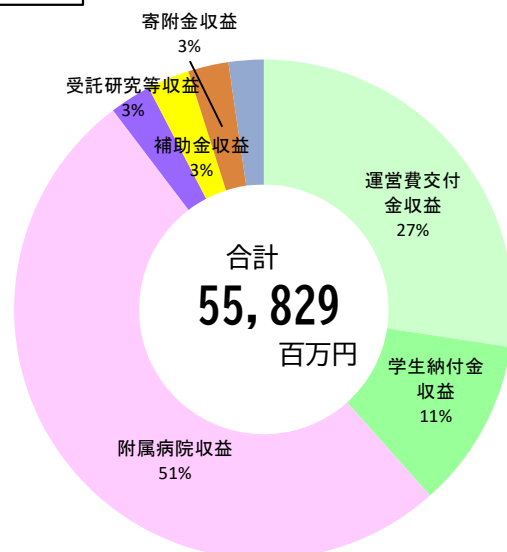
※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

令和5年度 経常費用、経常収益の構成

経常費用



経常収益



(5) キャッシュフロー計算書

ミカタ17P

一事業年度の資金（キャッシュ）の流れを一定の活動別に区分し、実際の資金の流れを表しています。

(単位：百万円)

業務活動によるキャッシュ・フロー		科目	令和5年度	令和4年度	増▲減
<p>※1 原材料、商品、サービスの購入等の業務支出は、診療報酬稼働額増に伴う診療経費増によるものです。</p>	※1	I 業務活動によるキャッシュ・フロー	6,289	7,035	▲ 746
		人件費支出	▲ 25,865	▲ 25,490	▲ 374
		原材料、商品、サービスの購入等の業務支出	▲ 22,230	▲ 21,519	▲ 711
		運営費交付金収入	15,507	15,170	337
		学生納付金収入	5,565	5,468	96
		附属病院収入	28,326	26,994	1,331
		その他の業務収入	4,985	6,412	▲ 1,427
		国庫納付金の支払額	-	▲ 1	1
<p>※3 固定資産の取得による支出は、(桜ヶ丘)外来診療棟・病棟(A棟)等に伴うものです。</p>	※3	II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 15,204	▲ 6,395	▲ 8,809
		有価証券の取得及び定期預金の預入による支出	▲ 19,503	▲ 24,070	4,566
		有価証券の償還及び定期預金の払戻による収入	18,670	22,419	▲ 3,749
		固定資産の取得による支出	▲ 14,157	▲ 6,931	▲ 7,226
		固定資産の売却による収入	-	2	▲ 2
		大学改革支援・学位授与機構への納付による支出	-	-	-
		減価償却引当特定資産の繰入による支出	▲ 2,092	-	▲ 2,092
		減価償却引当特定資産の取崩による収入	-	-	-
		施設費による収入	1,659	2,027	▲ 368
		利息及び配当金の受取額	219	157	61
<p>※5 長期借入による収入は、(桜ヶ丘)外来診療棟・病棟(A棟)等に伴うものです。</p>	※5	III 財務活動によるキャッシュ・フロー	7,027	245	6,781
		長期借入金及び大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済支出	▲ 1,878	▲ 1,842	▲ 36
		長期借入による収入	9,528	2,946	6,582
		リース債務の返済による支出	▲ 517	▲ 788	270
		利息の支払額	▲ 105	▲ 69	▲ 35
		IV 資金に係る換算差額	-	▲ 11	11
		V 資金増加額（又は減少額）【I + II + III + IV】	▲ 1,888	874	▲ 2,763
		VI 資金期首残高	15,612	14,738	874
※6		VII 資金期末残高【V + VI】	13,724	15,612	▲ 1,888

※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

区分		備考
業務活動	+	本業は好調であり、借入金を返済しつつ設備投資を行っている。
投資活動	-	
財務活動	+	

(6) 決算報告書

国等からの措置に応じた財源（予算）別に管理し、当初予算（予算額）と比較して報告しており、基本的には現金主義ですが、期末時点では納品済で未払の状態であっても支出として整理する等一部異なります。

ミカタ18P



(単位：百万円)

科目	(当初) 予算額	決算額	増▲減
※1 運営費交付金	15,355	15,605	250
※2 施設整備費補助金	1,537	1,641	105
補助金等収入	891	998	107
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	18	18	-
自己収入	32,855	34,917	2,062
授業料、入学金及び検定料収入	5,554	5,566	12
※3 附属病院収入	26,622	28,327	1,705
財産処分収入	-	-	-
※4 雑収入	679	1,024	345
※5 産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,914	3,314	399
産学連携等研究収入	1,739	1,797	58
寄附金収入	1,175	1,517	342
引当金取崩	-	36	36
長期借入金収入	9,037	9,529	491
※6 目的積立金取崩	-	193	193
収入計	62,607	66,249	3,642
業務費	46,603	46,703	99
※7 教育研究経費	20,542	19,725	▲817
※8 診療経費	26,062	26,978	917
施設整備費	10,592	11,188	596
補助金等	479	606	128
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,914	3,718	804
産学連携等研究費	1,739	1,794	55
寄附金事業費	1,175	1,924	749
長期借入金償還金	2,019	1,977	▲42
支出計	62,607	64,192	1,585
収入 - 支出	-	2,057	2,057

※1 運営費交付金は、病院省IT設備整備費等の追加措置によるものです。

※2 施設整備費補助金は、災害復旧事業等の当初予定していなかった金額を獲得したためです。

※3 附属病院収入は、平均在院日数の短縮、手術件数の増による入院診療単価の向上及び外来診療収入増等によるものです。

※4 雑収入は、消費税の還付を受けた影響等によるものです。

※5 産学連携等研究収入及び寄附金収入等は、外部資金の獲得に努めたためです。

※6 目的積立金取崩は、予算段階では計上していなかった前中期目標期間繰越積立金及び目的積立金の取崩しによるものです。

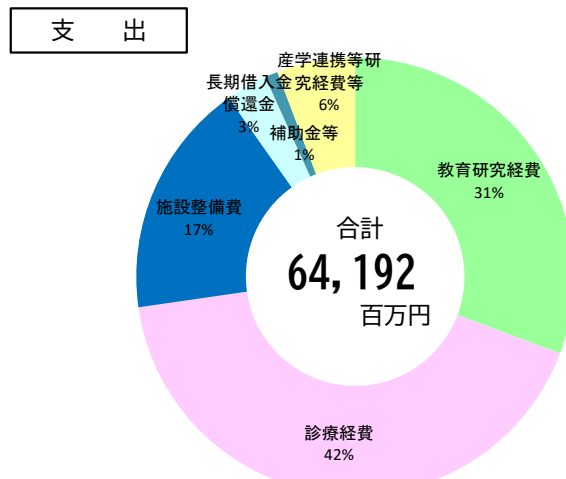
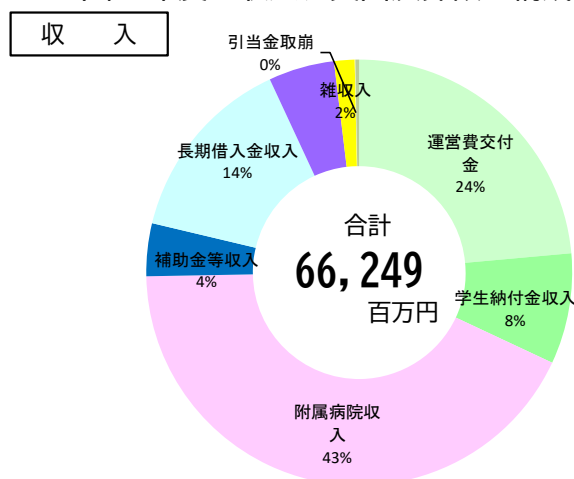
※7 教育研究経費は、経費の節減に努めたためです。

※8 診療経費は、医薬品費及び診療材料費の増加や教職員の人件費の増額の影響によるためです。

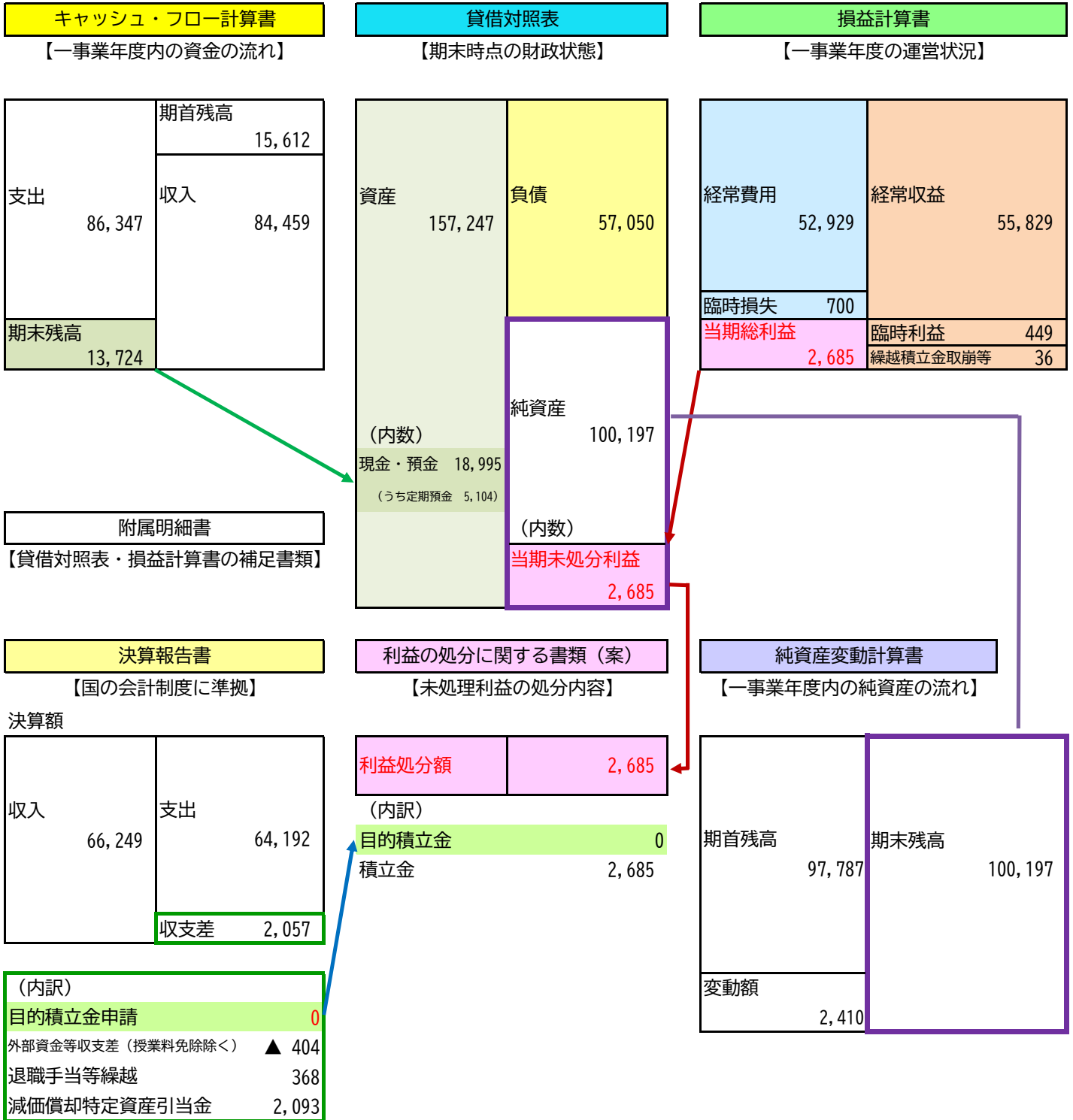
※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

内訳	目的積立金申請	0
	外部資金等収支差（授業料免除除く）	▲404
	退職手当等繰越	368
	減価償却特定資産引当金	2,093

令和5年度 収入、支出決算額の構成



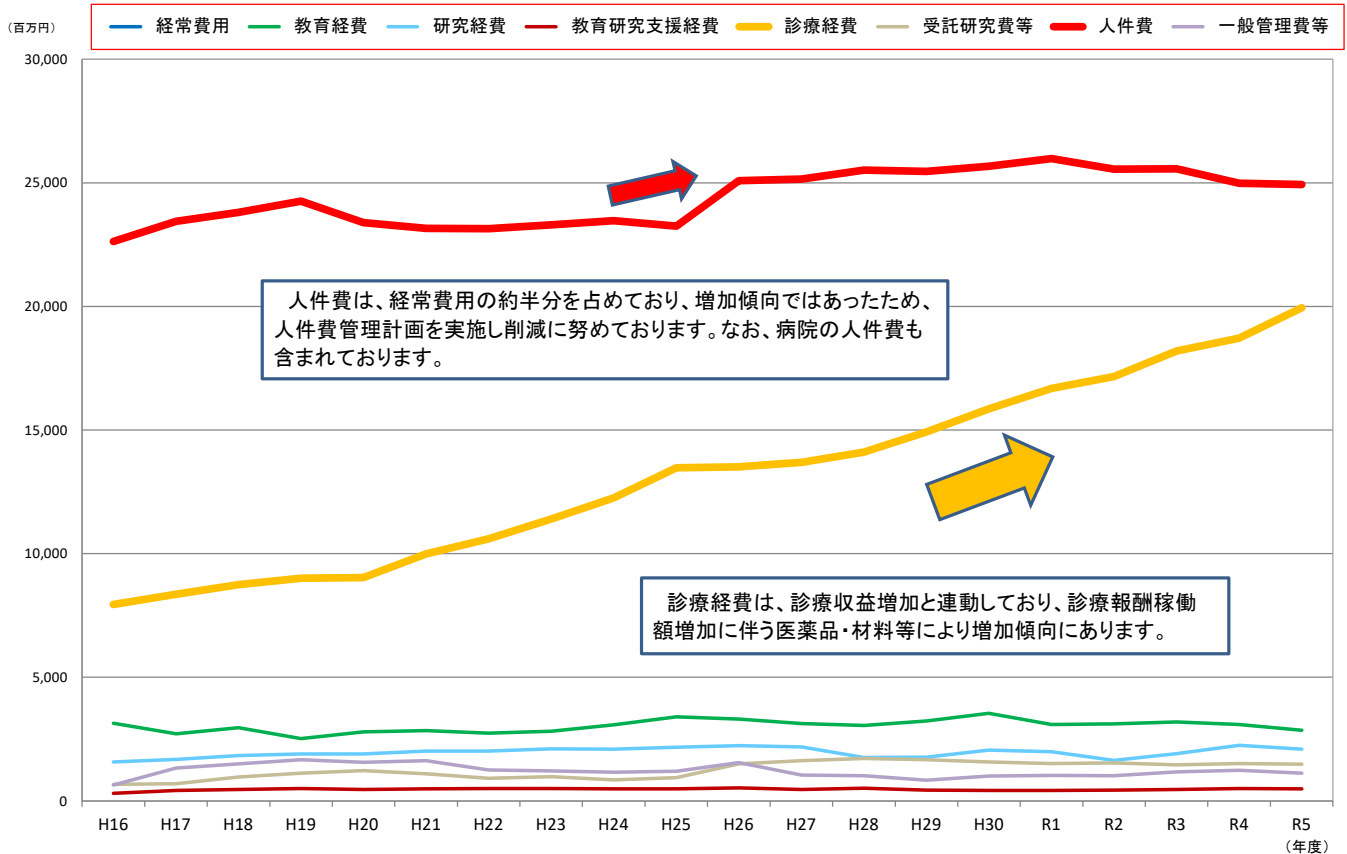
(7) 財務諸表の関連図



- ※ 単位は百万円です。
- ※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。
- ※ 令和4年度より国立大学法人等業務実施コスト計算書が廃止になりました。
- ※ 令和4年度より会計期間内の純資産の流れを示す純資産変動計算書が追加になりました。

(8) 経常費用・経常収益推移

■経常費用(H16～R5)



■経常収益(H16～R5)

